

測量の日 開南小で出前講座 児童らが測量体験



測量を体験する児童ら

測量の日実行委員会
は7月19日、那覇市の
開南小学校(島袋優校
長)で出前講座を開
き、同校6年生に測量
機器を使った測量方法

を紹介した。出前講座では、座学と測量体験学習を実施。座学では、国土地理院沖縄支所の阿久津修支所長が講師を務め、国土地理院の役割について紹介。国土地理院は地図を作成する国の機関として、国土を測る、描く、守る、伝えるという4つの役割を担っていると言明。具体的に、三角点や電子基準点を設置し日本の正確な位置の基準を定めることや、すべての地図の基礎となる地図を整備すること、航空測量用航空機など最新技術を活用した災害時の情報収集や防災施策を推進するこ

と、災害の備えとなる防災地理情報を提供することなどを挙げた。測量体験では、児童らが(一社)沖縄県測量建設コンサルタンツ協会の会員の指導のもと、歩測やトータルステーション(TS)を使用した測量点の計測などに取り組んだ。測量体験後、同協会の多嘉良斉専務理事は「測量の仕事は屋外のため、きついイメージを持たれているが、建物を建てたり地図を作るのに欠かせない仕事」と強調。「今は技術が発達し、少ない人員で効率よく測量できるようになり、しっかりと休みが取れる環境に

改善されてきている。今日の出前講座で、測量の仕事に興味を持ってもらいたい」と児童らに呼びかけた。出前講座に参加した石井明日斗さんは「測量する様子は道路で見ることがあったが、何をしているのか知らなかった。今日の出前講座で分かり、興味を持った」と話した。喜名梨有さんは「トータルステーションの仕事組みを学習して最新技術はすごいと思った。実際に機械に触れて操作方法を学べて良かった。測量の仕事に就いてみたいと思った」と笑顔を見せた。